

2017 年 10 月、本野球部の歴史が動きました。本野球部の鳩原翔が、学内で初めてプロ志望届を提出したのです。鳩原は 4 年間通算で 80 本の安打を放ち打率 .309 をマーク。盗塁も 30 回決め、新人王、盗塁王を一回ずつ、ベストナインを三回受賞しています。これだけの実績をたたき出した裏にはどんなプロセスがあったのか、鳩原にインタビューし、探りました。

Q. 大学時代はどの学部学科に所属し、現在はどんな仕事していますか？

A. 在学時は工学部建築・社会環境工学科(水環境デザインコース)に所属し、主に土木工学を学んでいました。現在は学んだことも生かし、インフラ企業に勤めています。

Q. 鳩原さんが東北大学硬式野球部に入部をしたきっかけはなんですか？

A. 高校野球を最後に野球中心の人生は終わりと考えていましたが、地元のプロ球団「楽天」優勝の盛り上がりや友達との遊び野球を通し、野球の楽しさを改めて感じ、もう一度真剣に野球がしたいと思ったことです。入学時に入部を決めていましたが、実際に仙台六大学野球の試合を見たことも、入部の意思を固くするきっかけとなりました。



Q. 猛者揃いの他大学を相手にしながらも、リーグ通算 80 安打を放ち通算打率.309 をマーク、ベストナイン 3 回、新人王、盗塁王を 1 回ずつ受賞しました。本野球部で大きく成長できた理由は何でしょうか。取り組んだこと、考えていたこと等を教えてください。

A. 平日は、朝練以降、各自時間を見つけグラウンドで練習するという環境であると思います。チーム一練習したというわけではありませんが、一人もしくは小人数で、自分のプレーと向き合い試行錯誤したあの時間が着実にレベルアップへつながったと感じます。特に自分のスイングを毎回ビデオ撮影して見直す取り組みが良かったと思います。試合では、余計なことはあれこれと一切考えず自身を持って自分のプレーをすること、良い意味で楽しむことを考えていました。



Q. 本野球部の魅力は何であるとお考えですか？

A. 輪だと思います。先輩後輩の風通しが良いことで、野球はもちろん人としても多くのことを学ぶことができました。この輪は OB となった今でも本当に色々なところにつながっています。

Q. 部活と学業、研究との両立で、どんな生活を送っていましたか。また、両立するために工夫していたことはありますか？

A. 1~3年時は、一般教養の授業を受けた後、時間があればグラウンドへ行き練習。4年時は、朝練後午前中練習し、それから研究室へという生活でした。

工夫について、強いていうなら「グラウンドへ行くという習慣」です。同期にこの習慣があったため、時間があれば自分も行って練習しようと思いました。学業やアルバイトも疎かにはできませんが、自主練する時間はあるはずなので意識次第だと思います。

Q. 東北大学に入学するためのオススメの勉強法や生活リズムの立て方を、高校生向けに教えてください。

A. 大事なことは、「自己分析」「短期と長期計画」「基礎学習」の3つではないかなと浪人を経験して感じました。現役時は夏の大会が終わってから、現在自分が何をどこまで理解できているかもわからず、焦って手当たり次第に問題を解いてしまっていたように思います。応用問題は他の受験生にとっても難しいので、それを解く力よりも基礎問題を確実に解く力の方が大事かなと思います。また、勉強に疲れた時には息抜きに素振りをするとうまいと思います。



A. 最後に、東北大学野球部ファンに一言お願いいたします。

Q. ファンの方も、そうではない方もぜひ仙台六大学野球リーグで奮闘する東北大学野球部を見に球場へいらしてください。

おわりに

鳩原は、全体練習以外の時間にいかにグラウンドでストイックに練習をするかという「練習量」と、客観的に自己分析しながら練習に取り組むという「練習の質」を重要視していました。大学での学業の都合上、本野球部では平日の練習についてはどうしても個人に委ねられます。その状況では監督・コーチはおらず、いかに自分でストイックに、さらには質を高めて練習に取り組めるかが成長のカギを握ります。鳩原曰く、それは受験勉強や大学での学びについても同じで、「今自分ができること・できないこと」を正確に分析してから、自分の段階的な目標とそれを達成するための段階的な計画を立て、確実に実行することが何よりの成長の秘訣なのだということをお私達に教えてくれました。

仙台六大学野球はかつてない盛り上がりを見せています。盛り上げ役となっているのは間違いなくドラフト候補の怪物たちであると考えていますが、本野球部のような万年下位に沈むチームが下剋上を成し遂げたら、それもまた盛り上がるであろうと信じています。そのためには「基礎」が大事です。バットを振る、球を投げる、体を鍛えるトレーニングなどなど。学業も「基礎」が大事。ノートをとる、基本問題を解く、忘れてはならないのが、授業に出ること・・・。